



和歌山県 海南市立下津第二中学校
校長 油谷 正之

1 はじめに

海南市立下津第二中学校では、「夢をかたり 汗をかき 絆をつむぐ」を教育目標とし、「地域とともにある信頼される学校づくり」を重点目標に、近い将来発生が予想される南海トラフ地震に対応できる知識と行動力を身に付けるよう取り組んでいます。

2 東日本大震災以降の取組と課題

東日本大震災を教訓とし、南海トラフ地震に備えるため、海南市や海南市教育委員会と連携して避難体制の見直しを行うとともに、これまで約10年にわたり、津波避難訓練や防災学習等を積み重ね、中学3年間を通じて、生徒が自ら命を守るための知識と行動力を身に付けることができるよう取り組んできました。

しかし、東日本大震災から約10年が経過し、現在の中学生は、東日本大震災を教科書で学び、災害を「自分ごと」にし難い世代に移りはじめています。

また、これまで、被災後の「いのち」を守るための行動を中心に防災学習を進めてきており、避難生活や復旧・復興期の「くらし」について学ぶ機会が少なかったことから、少子高齢化や地域活性化などとともに、災害を複合的な地域課題の一部ととらえ、行政や企業、団体、地域内外の方々と連携し、生徒自身が地域の一員として災害を「自分ごと」に考えることができるようになることが求められています。

3 「いのち」と「くらし」の実践的防災学習（令和元年度の取組）

（1）災害を学ぶ

兵庫県教育委員会 震災・学校支援チーム「EARTH」から、被災地の知見や教訓を学ぶとともに、災害時の食事づくりを体験しました。

また、海南市と海南市社会福祉協議会から、「災害関連死」や「在宅避難」、「復旧・復興」について学びました。

（2）津波避難訓練、災害ボランティア活動訓練

海南市防災訓練に参加し、津波避難訓練を実施するとともに、災害ボランティア活動訓練に参加しました。

災害ボランティア活動訓練では、中学生、小学生、大学生等、福祉系専門職、一般ボランティアが5名1チームになり、塩津・大崎地区の避難所に避難している地域の方や、地域の在宅避難者の方に、健康状態の聞き取りをグループで行いました。中学生は、避難者への災害関連死を防ぐため啓発活動の役割を担いました。

（3）中学生と大学生たちによるグループワーク

訓練後、中学生は、約10年前に小・中学生だった全国から集まった大学生たちとともに、被災地の映像や被災地の中学生の言葉と作文を題材に東日本大震災について学び、中学生と大学生が一緒に「東日本大震災を振り返って感じたこと」、「中学生・高校生が南海トラフ地震に備え、事前にできること、発生後にできること」について意

＜取組の様子＞



災害ボランティア活動訓練の様子（健康状態などの聞き取り）



中学生と大学生とのグループワーク



東北大学学生からのメッセージ

見交換などのグループワークを行い、発表を行いました。

また、最後には、東北大学の渡邊勇さんから、中学生に向けたメッセージを聞きました。

4 今後に向けて

今回の取組を通じ、中学生が、小学生、大学生等、福祉系専門職、一般ボランティアとチームになり、一緒に汗を流し、地域の方々への支援活動を行うことで、ボランティア活動の意義や連携の大切さを学ぶことができました。また、中学生が、東日本大震災の発生当時に小・中学生であった全国から集まった大学生たちと一緒に活動し、同じ目線で東日本大震災や南海トラフ地震

について語り合うことで、地域課題を「自分ごと」として捉えることができました。

訓練後のアンケートでは、生徒からは、「お祭りや行事など地域の人と関わる事をしたい」「地域の人への思いやりの気持ちを忘れない」「地域のボランティア活動に参加したい」「住んでいるまちは高齢者が多いので助けることができるようになりたい」など、平時からの地域とのつながりに関する意見が多くみられました。今後は、平時の取組が災害時に役立つことから、平時から災害時を見据えた地域学習に取り組んでいきたいと考えています。